植物研究雑誌
J. Jpn. Bot.
71: 125–144 (1996)

群馬県における普通植物の分布

金井　弘夫
184　小金井市[redacted]

Distribution of Popular Plants in Gunma Prefecture, Central Japan

Hiroo KANAI

[redacted]Koganei-shi, Tokyo, 184 JAPAN

(Received on December 28, 1995)

Distribution of 31 popular plants (Tab. 1 and Figs. 2 to 17) in Gunma Prefecture, central Japan was surveyed in cooperation with local botanists. *Reynoutria sachalinensis* is detected only in the northernmost part of the prefecture. Others are wide-spread or decreasing from south to north. Three groups are recognized by comparing their distribution density between northern and southern parts of the prefecture. *Albizia julibrissin* is nearly absent in northern part unlike its popularity in other prefectures.

群馬県における普通植物の分布調査を，1994および1995年に地域在住研究者の協力を得て行った．手法については従来と同じであるので，金井（1993，1995）およびTable 1を参照されたい．分布情報を提供していただいた青木雅夫氏，小林靖昌氏，須藤志成幸氏，原島富男氏，深見正子氏，松沢篤郎氏，御巫由紀氏に感謝する．とりわけ協力者の紹介や連絡につきお世話をいただいた松沢篤郎氏に重ねて謝意を表する．また現地調査を手伝って下さった上原正士氏，海老原淳氏に御礼申し上げる．

分布情報の数は総計2535件であった．本報では表示メッシュを5倍メッシュ（2.5万図の1／4）とする．この場合県の全メッシュ数は281である．本調査では有効メッシュ（なんらかの情報が得られたメッシュ）は147（Fig. 1），有効メッシュ率は52％である．この値はこれ迄の他県の結果と比較して，一通りの調査が行われたことを意味する．情報の年代はすべて1980年代以降のものだったので，一括して扱った．

オオイタドリが県最北部のみに出現する以外は，概して南部に濃く北部へ薄い分布，または県内一様に分布するパタンが認められた．北部へ薄いパタンの場合，三国街道沿いに北上するものが多かった．

県の南北での分布量を比較するため，県中央部を東北東～西南西に過ぎる線（Fig. 1）を仮定し，その南北で分布量を比較した．この線は足尾山地の地蔵岳から赤城山，渋川，榛名山を通り，上信国境の鼻曲山に至る．線の南側は平野部を含み，北側は山地帯である．南側の有効メッシュ数は76，北側は71である．それぞれの種類の北半での分布点数の有効メッシュに対する比をvn，南半のそれをvsとしたとき，vn／(vn + vs) の値（％）が50に近いほど分布が一様であることを示す．この値（南北差Dns）を用いて県内の対象普通植物を仕分けすると以下のようになる．区切り値は便宜的なものである（Table 1）．

A. 南部にくらべて北部の分布が極端に少ないもの（Dns＜10）

キツネノマゴ，チカラシバ，ツメクサ，ナズナ，ネムノキ，ヤブカラシ

B. 南部にくらべて北部の分布がかなり少ないもの（10≦ Dns＜25）

Table 1. 調査対象植物と群馬県の有効メッシュ（147）に対する出現比．配列は植物コード順．植物コード：環境庁1987の種番号．情報数：植物産地の件数．分布点数：分布図に用いられた表示用メッシュ（本報では5倍メッシュ）において，その種が存在するメッシュの数．All：全県．ps：南部．pn：北部．分布密度：出現数の有効メッシュ数に対する比（%）（va = All／147，vs = ps／76，vn = pn／71）．南北差（Dns）：北部の分布密度を両地域の分布密度の和で割った値（%）（vn／(vn + vs)）．(List of target plants and their distribution densities.)

植物名	Plant Name	植物コード Plant Code	情報数 Record Size	分布点数 No. of point			分布密度 Density (%)			南北差 Dns(%)	分布図 Fig.
				All	ps	pn	va	vs	vn	vn/(vn+vs)	
有効メッシュ	Valid Mesh (expected 281)			147	76	71					1
カナムグラ	*Humulus japonicus*	12600	144	63	42	21	43	55	30	35.3	5A
イタドリ	*Reynoutria japonica*	14320	205	94	45	49	64	59	69	53.9	3A
オオイタドリ	*Reynoutria sachalinensis*	14360	22	13	0	13	9	0	18	100.0	3B
スベリヒユ	*Portulaca oleracea*	14600	64	25	21	4	17	27	6	18.2	9A
ツメクサ	*Sagina japonica*	15130	11	9	9	0	6	12	0	0.0	10B
アケビ	*Akebia quinata*	19210	72	49	32	17	33	42	24	36.4	2B
ドクダミ	*Houttuynia cordata*	19510	74	41	36	5	28	47	7	13.0	12A
タケニグサ	*Macleaya cordata*	21570	132	67	37	30	46	49	42	46.2	9B
ナズナ	*Capsella bursapastoris*	21830	28	21	20	1	14	26	1	3.7	12B
ヤマブキ	*Kerria japonica*	25390	69	44	24	20	30	32	28	46.7	17A
ナワシロイチゴ	*Rubus parvifolius*	27170	77	50	32	18	34	42	25	37.3	13A
ネムノキ	*Albizia julibrissin*	28220	60	36	34	2	24	45	3	6.3	14A
コマツナギ	*Indigofera pseudotinctoria*	28960	48	24	19	5	16	25	7	21.9	7B
クズ	*Pueraria lobata*	29680	191	85	55	30	58	72	42	36.8	6B
シロツメクサ	*Trifolium repens*	29860	206	99	47	52	67	62	73	54.1	8A
ゲンノショウコ	*Geranium thunbergii*	30630	111	67	32	35	46	42	49	53.8	7A
アカメガシワ	*Mallotus japonicus*	31350	50	31	27	4	21	36	6	14.3	2A
ヌルデ	*Rhus javanica* var. *roxburgii*	32260	168	79	48	31	54	63	44	41.1	13B
ヤブカラシ	*Cayratia japonica*	34850	78	33	31	2	22	41	3	6.8	16B
テイカカズラ	*Tracherospermum asiaticum*	45190	32	21	19	2	14	25	3	10.7	11B
ヘクソカズラ	*Paederia scandens*	46740	146	63	50	13	43	66	18	21.4	15B
クサギ	*Clerodendron trichotomum*	47850	47	34	30	4	23	39	6	13.3	6A
オオイヌノフグリ	*Veronica persica*	51420	46	32	26	6	22	34	8	19.0	4A
キツネノマゴ	*Justicia procumbens*	51690	54	21	20	1	14	26	1	3.7	5B
オオバコ	*Plantago asiatica*	52300	274	124	62	61	84	82	86	51.2	4B
スイカズラ	*Lonicera japonica*	52720	54	38	30	8	26	39	11	22.0	8B
ノブキ	*Adenocaulon himalaicum*	54480	35	28	15	13	19	20	18	47.4	14B
フキ	*Petasites japonicus*	58870	120	61	20	41	41	26	58	69.0	15A
ヤクシソウ	*Youngia denticulata*	60390	98	50	26	24	34	34	34	50.0	16A
ツユクサ	*Commelina communis*	65090	164	71	51	20	48	67	28	29.5	11A
チカラシバ	*Pennisetum alopecuroides*	69520	62	22	21	1	15	28	1	3.4	10A

アカメガシワ，オオイヌノフグリ，クサギ，コマツナギ，スイカズラ，スベリヒユ，テイカカズラ，ドクダミ，ヘクソカズラ

C. 南部と北部の分布がほぼ同じもの（25≦Dns＜75）

アケビ，イタドリ，オオバコ，クズ，カナムグラ，ゲンノショウコ，シロツメクサ，タケニグサ，ツユクサ，ナワシロイチゴ，ヌルデ，ノブキ，フキ，ヤクシソウ，ヤマブキ

D. 北部にくらべて南部の分布がかなり少ない

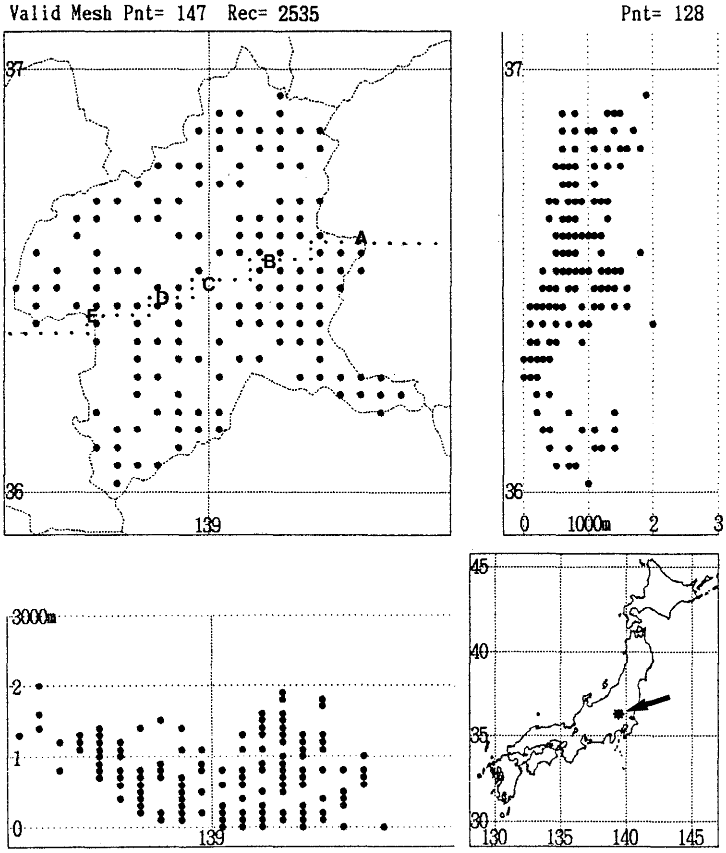

Fig. 1. 有効メッシュ．点線は南北地域の境界．Valid Mesh. A: Mt. Jizodake. B: Mt. Akagi. C: Shibukawa. D: Mt. Haruna. E: Mt. Hanamagari. Dotted line represents the north／south boundary.

もの（75≦Dns＜90）

なし

E. 北部にくらべて南部の分布が極端に少ないもの（90≦Dns）

オオイタドリ

本調査の対象植物は東京付近を目安として選んだもので，日本海側に分布するオオイタドリはイタドリとの区別のために加えたものである．したがってオオイタドリのみがE群に現れるのは当然であり，D群がないのも選定基準からみてうなずける．A, B, C群の植物も，その名を見ればこういう傾向に違和感はないだろう．ただ，ネムノキがA群に入っていることは，従来の調査結果からみて注目される．ネムノキは多くの地域で普通な植物であり，ヌルデと共に同じ地点で記録される傾向が強い．金井（1994）によれば，東北から中国地方へかけての7県におけるネムノキの産地1445地点のうち，ヌルデと共に記録されたのは1156地点だった．倉田（1964），堀川（1973）では関東山地と飛騨高地にネムノキの分布の空白が記録されている．金井ほか（1994）によると，長野県の佐久地域では海抜高度の低い地域に僅かに産するのみである．これらのことから，ネムノキは群馬県北部から長野県佐久地域にかけて，分布がきわめて少ないと推定される．倉田ほか（1971）ではネムノキの関東，飛騨の空白は埋められているが，その依拠資料について再検討を要する．一方ヌルデは，これらの地域に一様に分布

している．

冒頭にのべた有効メッシュ率52％は，未調査の地域や季節がまだかなり残されていることを意味する．とくに本県は面積の割に到達困難な多雪地が多いので，季節ごとの調査地点図（Fig. 17B）をみれば，ほとんどの調査が夏期に行われたことを示している．したがって特に春季に発見されやすいオオイヌノフグリなどは，まだ産地の増加が期待される．

引用文献

倉田　悟　1964．原色日本林業樹木図鑑 I．地球出版，東京．

倉田　悟ほか　1971．林業樹木図鑑 I（第2版）．地球出版，東京．

堀川芳雄　1973．Atlas of Japanese Flora．学研，東京．

金井弘夫　1993．岐阜県における普通植物の分布．国立科学博物館研究報告 B 類，**19**: 59–78.

――――・清水建美・山本雅道　1994．長野県植物地理の資料(3)　植物研究雑誌　**69**: 84–110.

――――　1994．ヌルデとネムノキは仲よし？野草 **60**: 7–8.

――――　1995．滋賀県における普通植物の分布．国立科学博物館研究報告 B 類，**21**: 131–150.

環境庁　1987．植物目録．

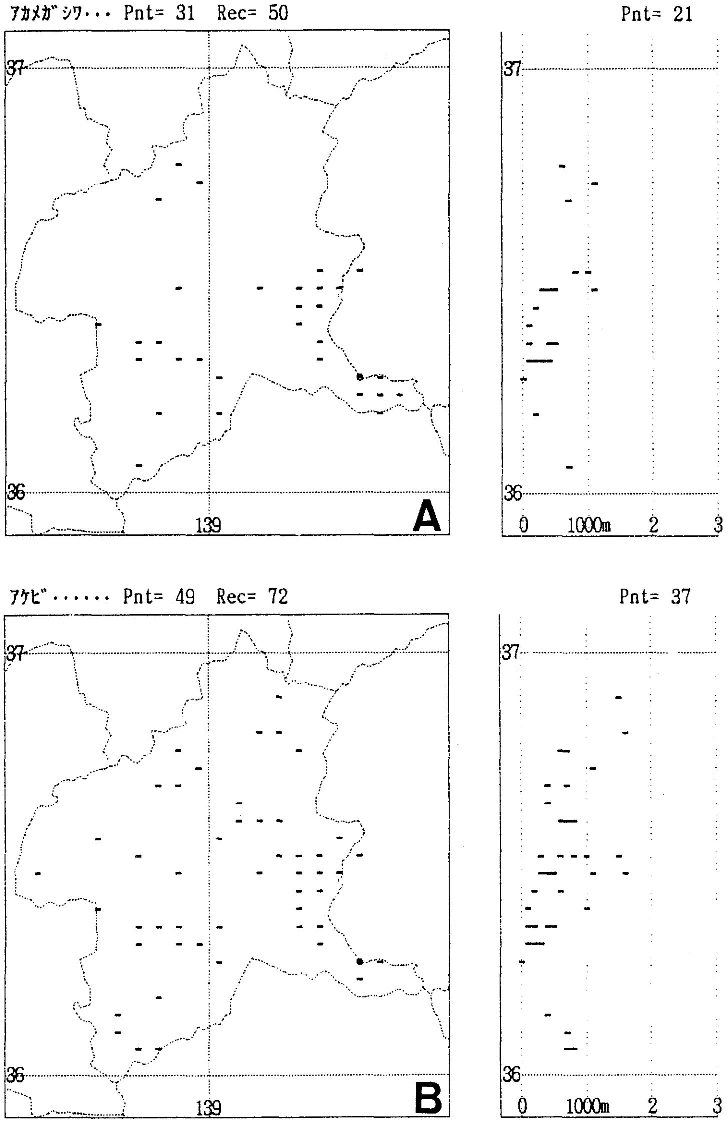
ｱｶﾒｶﾞｼﾜ・・・ Pnt= 31 Rec= 50
Pnt= 21
37
36
139
A
37
36
0
1000m
2
3
ｱｹﾋﾞ・・・・・・ Pnt= 49 Rec= 72
Pnt= 37
37
36
139
B
37
36
0
1000m
2
3

Fig. 2. A: *Mallotus japonicus*. ●標本 (Specimen). ＋文献 (Literature). －視認 (Observation). B: *Akebia quinata*.

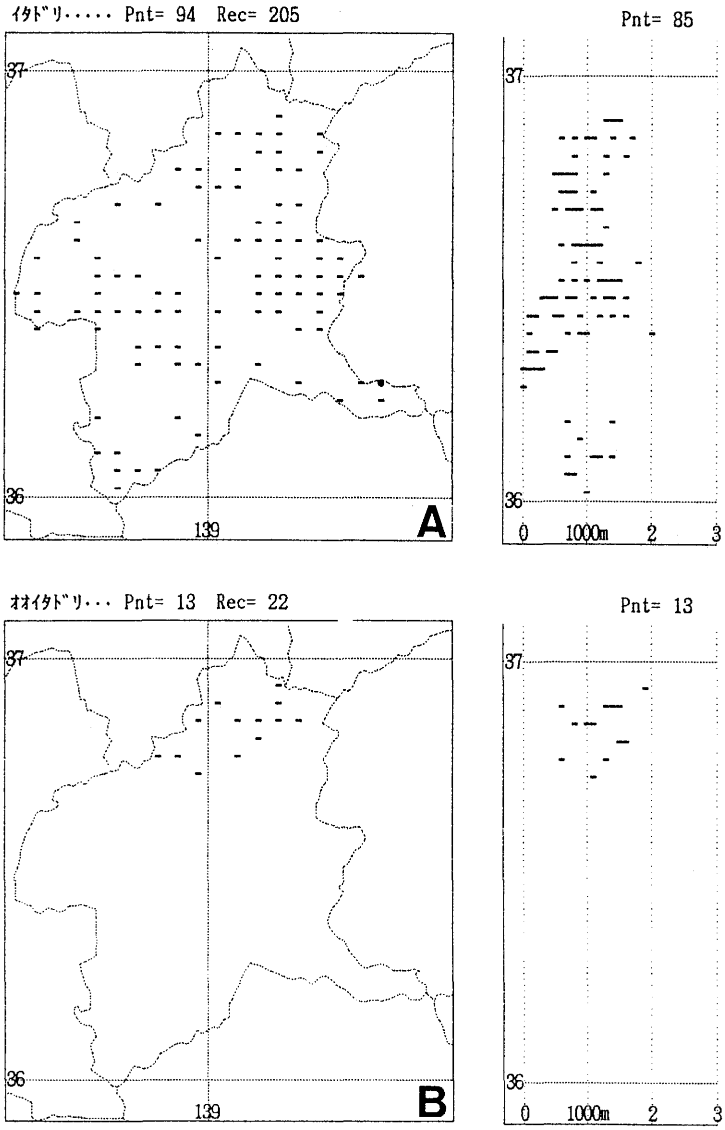

Fig. 3. A: *Reynoutria japonica*. B: *Reynoutria sachalinensis*.

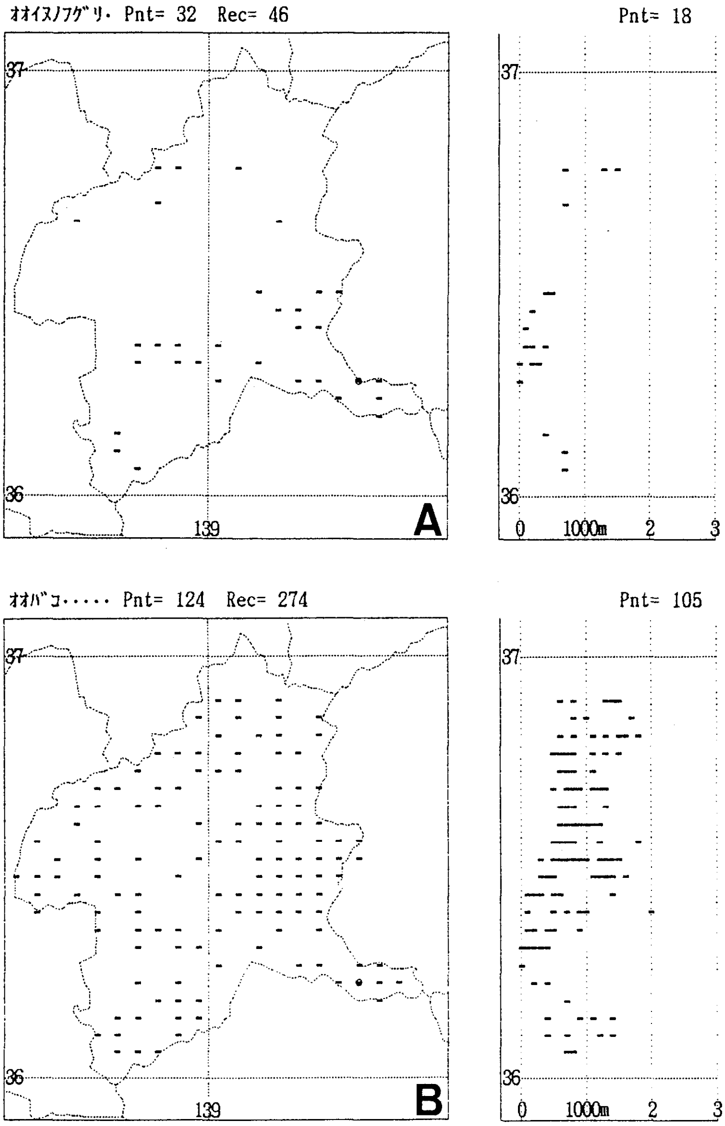

Fig. 4. A: *Veronica persica*. B: *Plantago asiatica*.

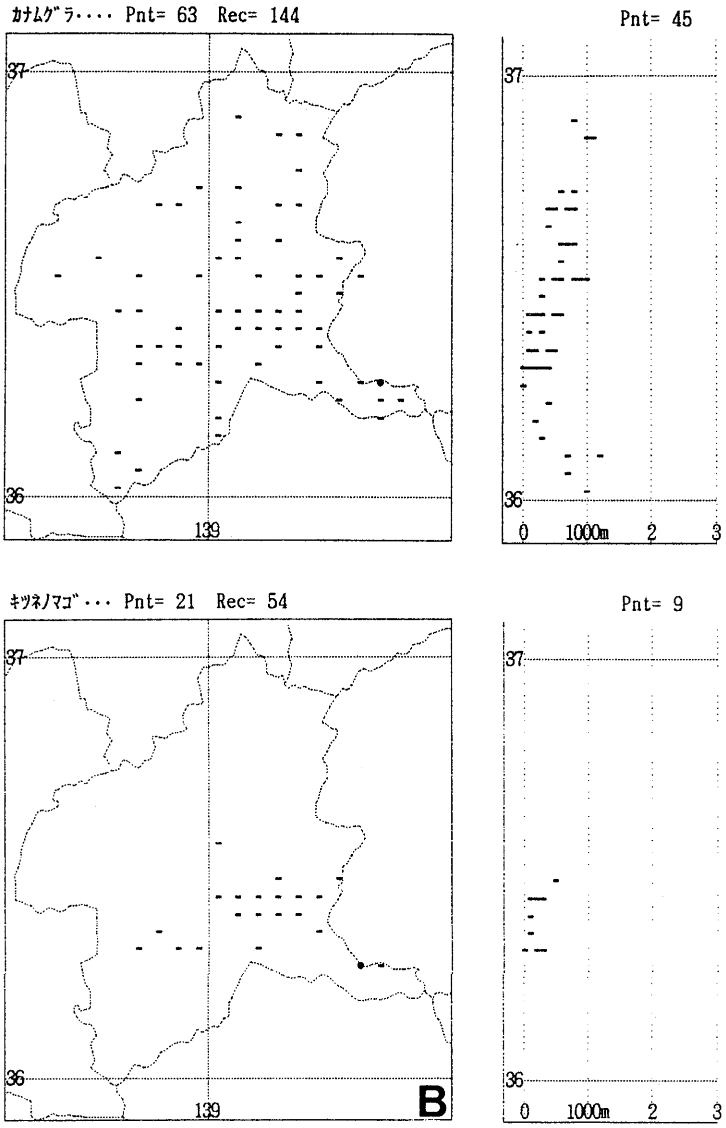

Fig. 5. A: *Humulus japonicus*. B: *Justicia procumbens*.

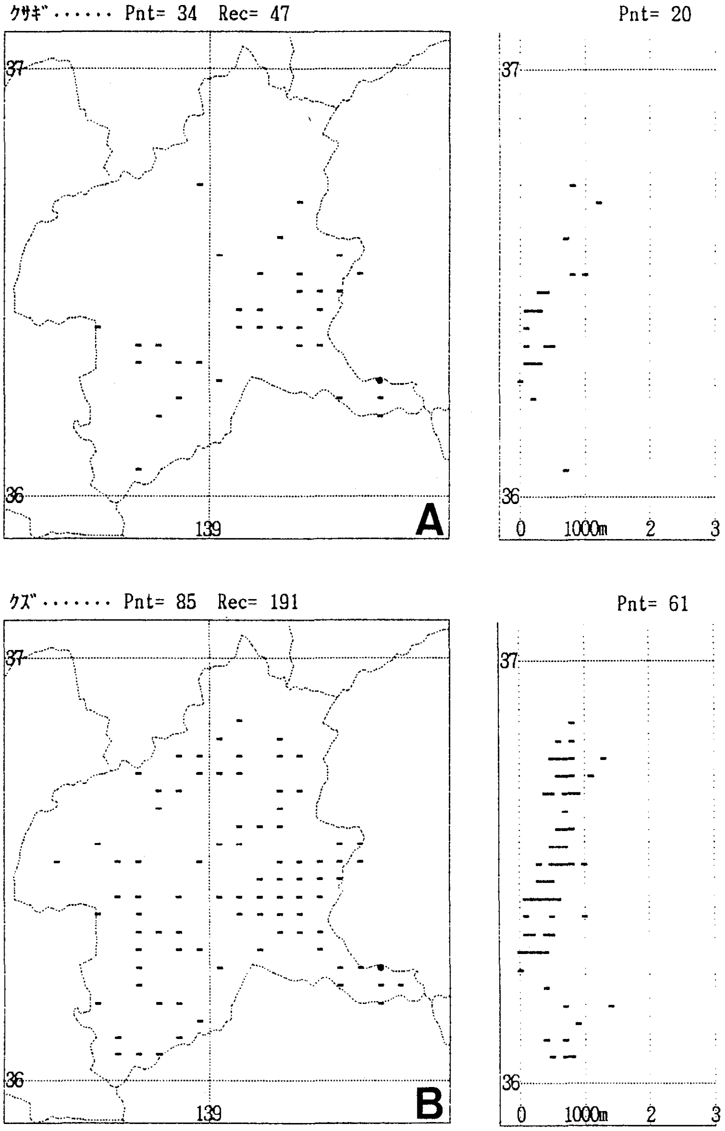

Fig. 6. A: *Clerodendron trichotomum*. B: *Pueraria lobata*.

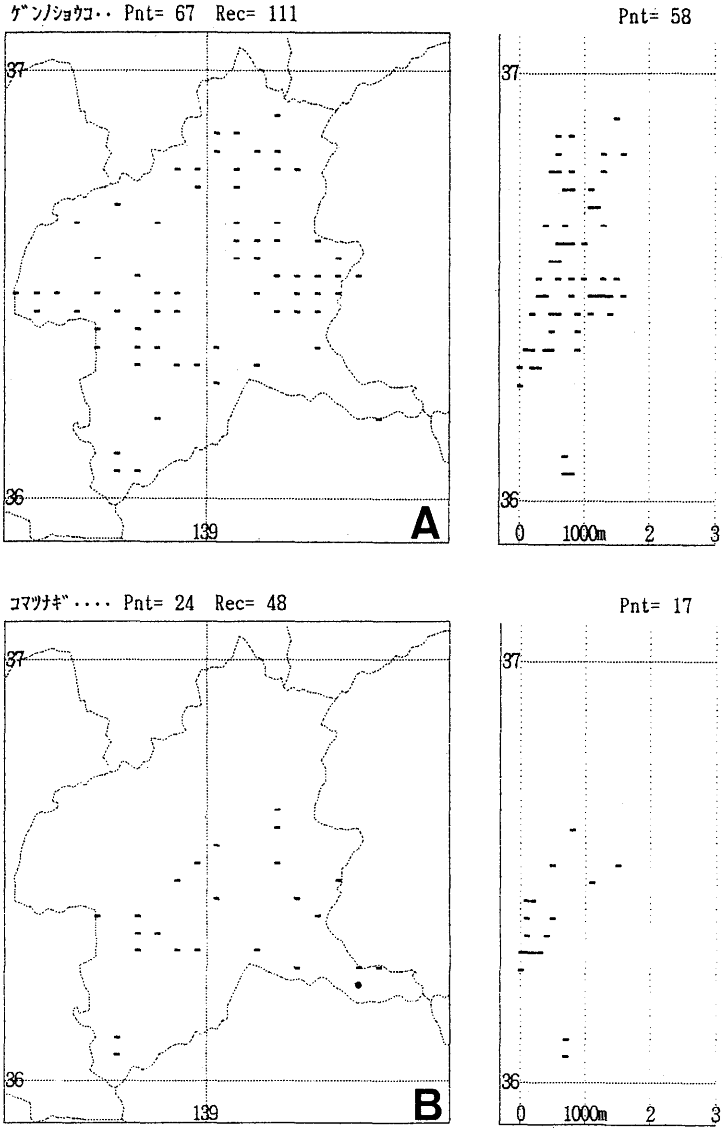

Fig. 7. A: *Geranium thunbergii*. B: *Indigofera pseudotinctoria*.

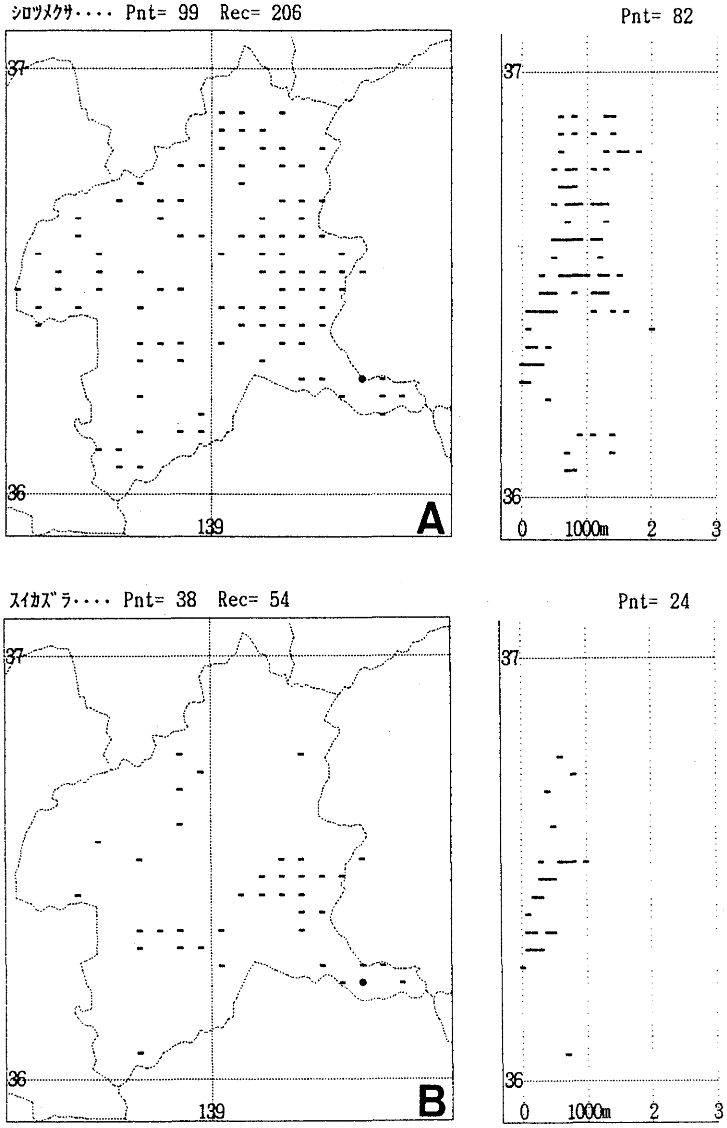

Fig. 8. A: *Trifolium repens*. B: *Lonicera japonica*.

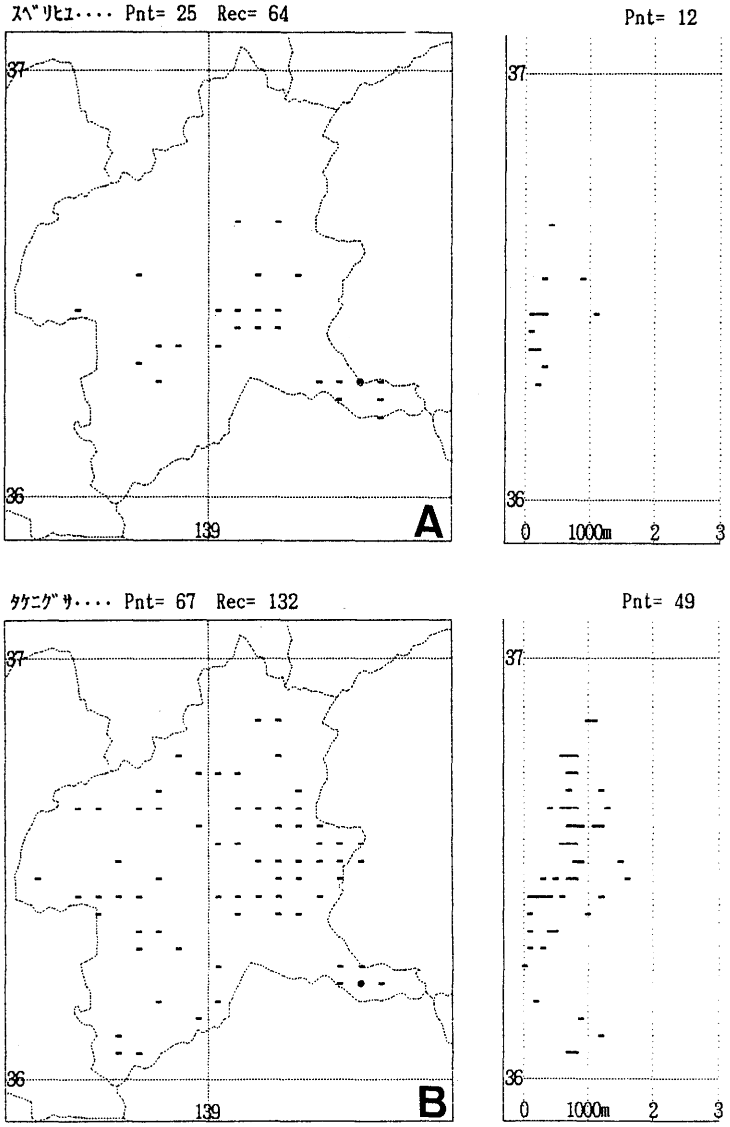

Fig. 9. A: *Portulaca oleracea*. B: *Macleaya cordata*.

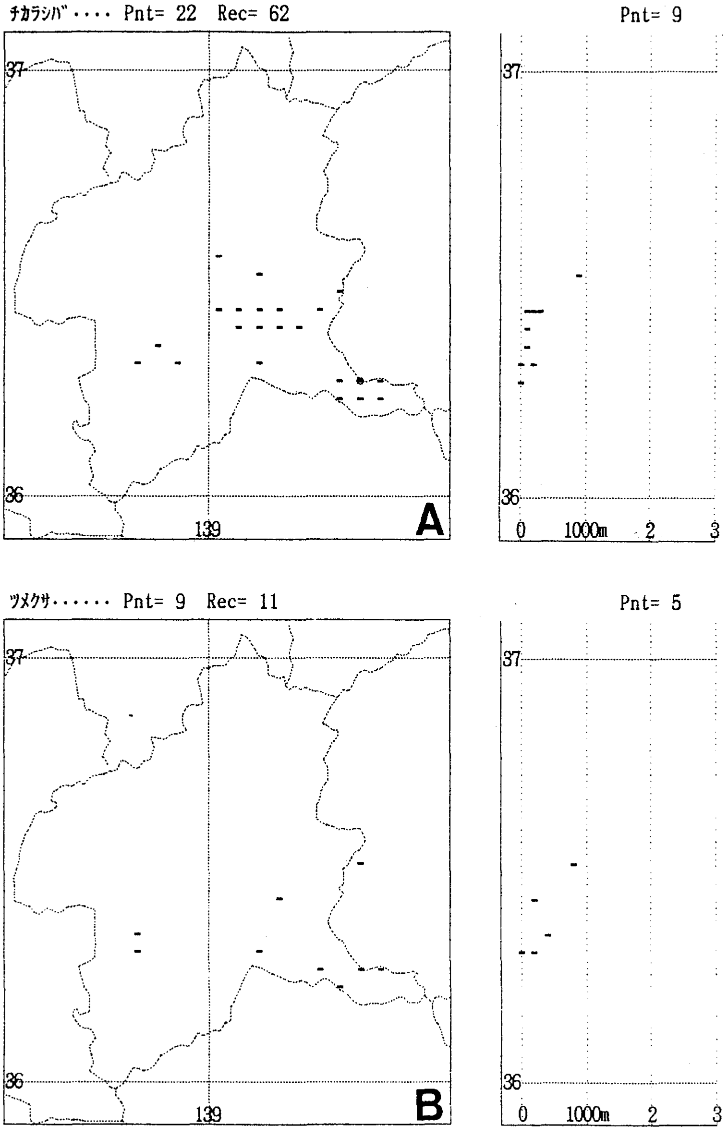

Fig. 10. A: *Pennisetum alopecuroides*. B: *Sagina japonica*.

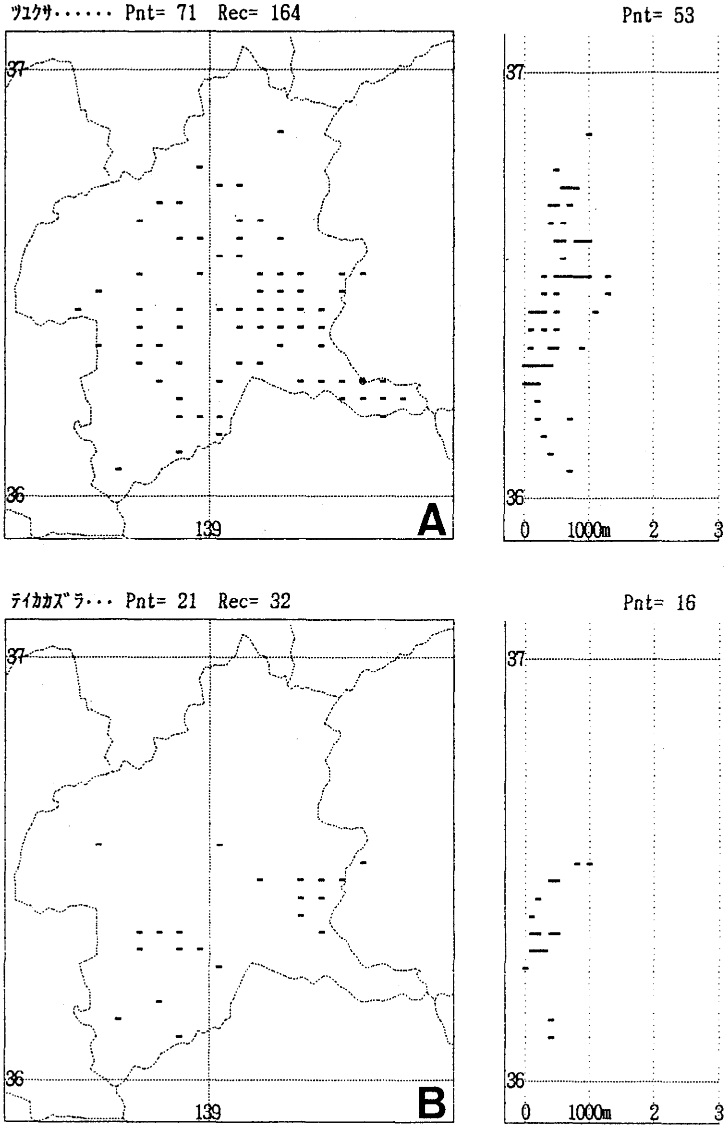

Fig. 11. A: *Commelina communis*. B: *Tracherospermum asiaticum*.

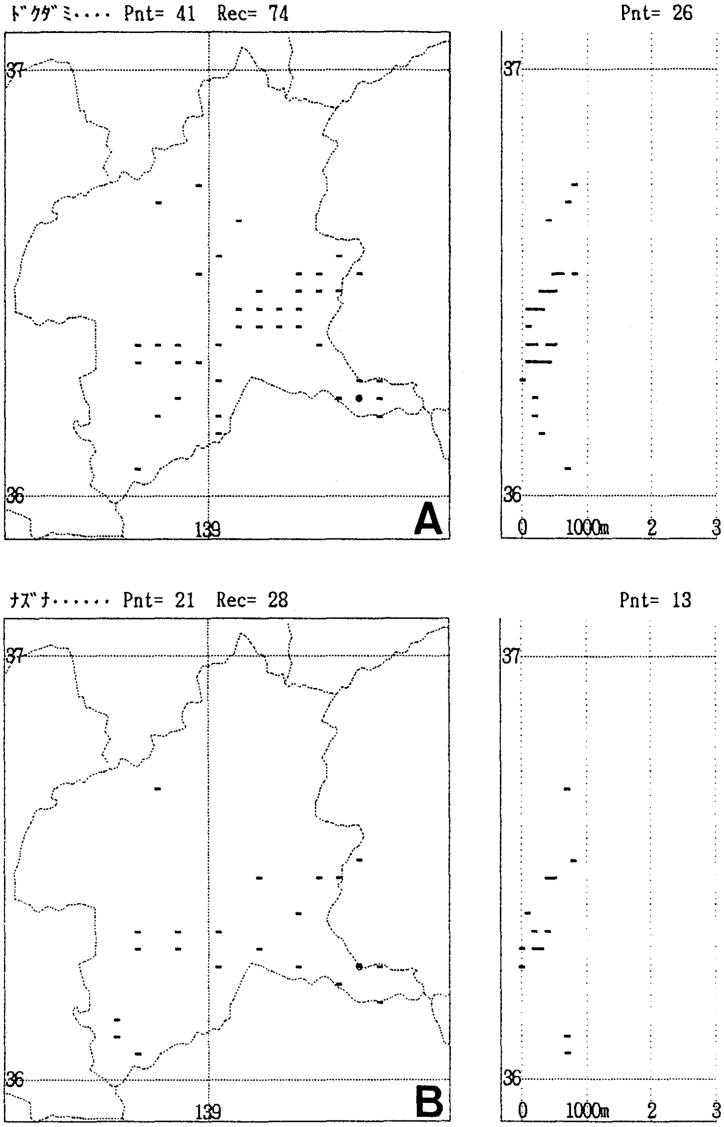

Fig. 12. A: *Houttuynia cordata*. B: *Capsella bursapastoris*.

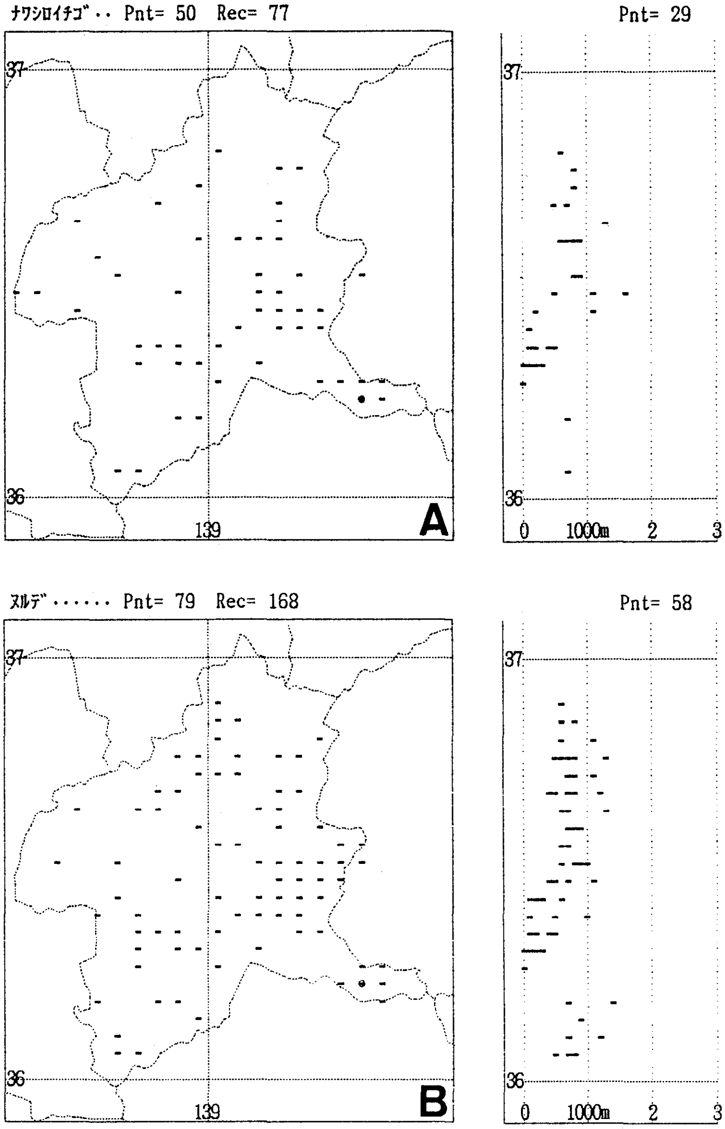

Fig. 13. A: *Rubus parvifolius*. B: *Rhus javanica* var. *roxburgii*.

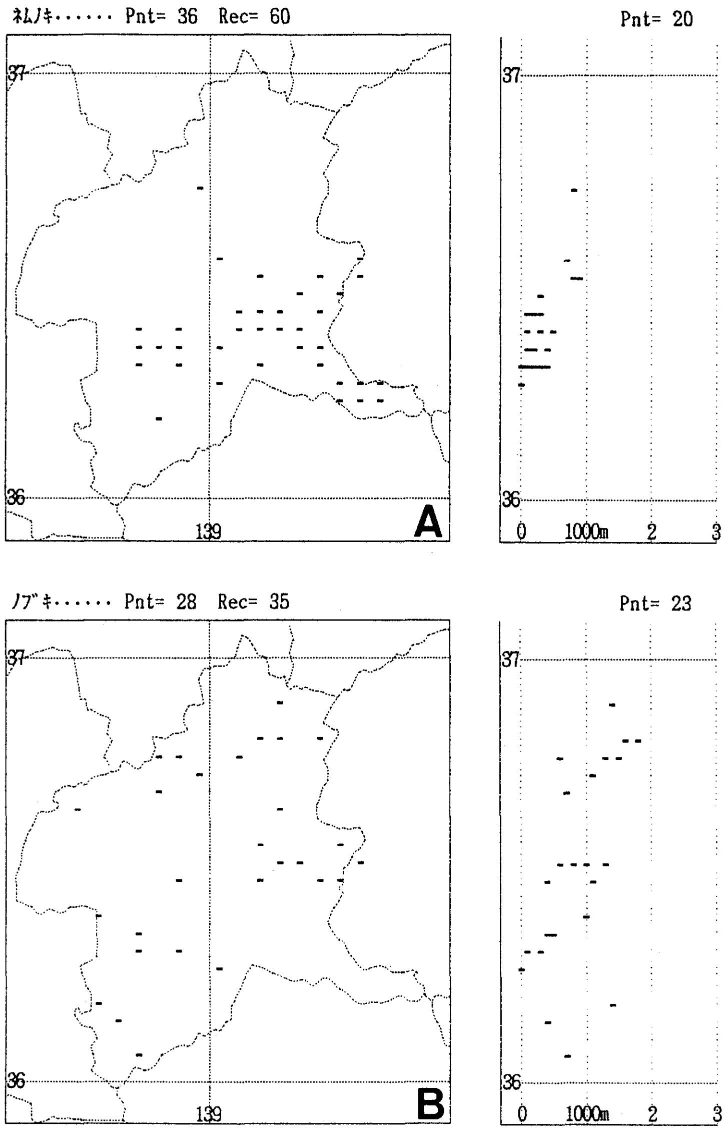

Fig. 14. A: *Albizia julibrissin*. B: *Adenocaulon himalaicum*.

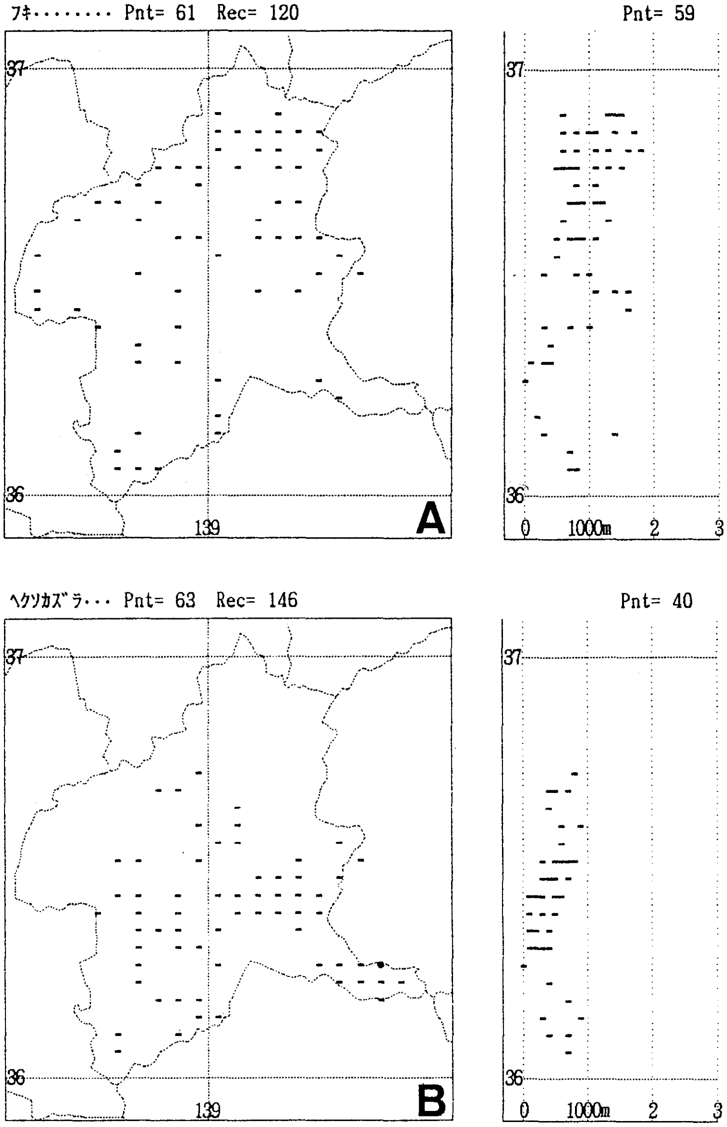
ﾌｷ・・・・・・・・ Pnt= 61 Rec= 120
Pnt= 59
37
36
139
A
0
1000m
2
3
ﾍｸｿｶｽﾞﾗ・・・ Pnt= 63 Rec= 146
Pnt= 40
37
36
139
B
0
1000m
2
3

Fig. 15. A: *Petasites japonicus*. B: *Paederia scandens*.

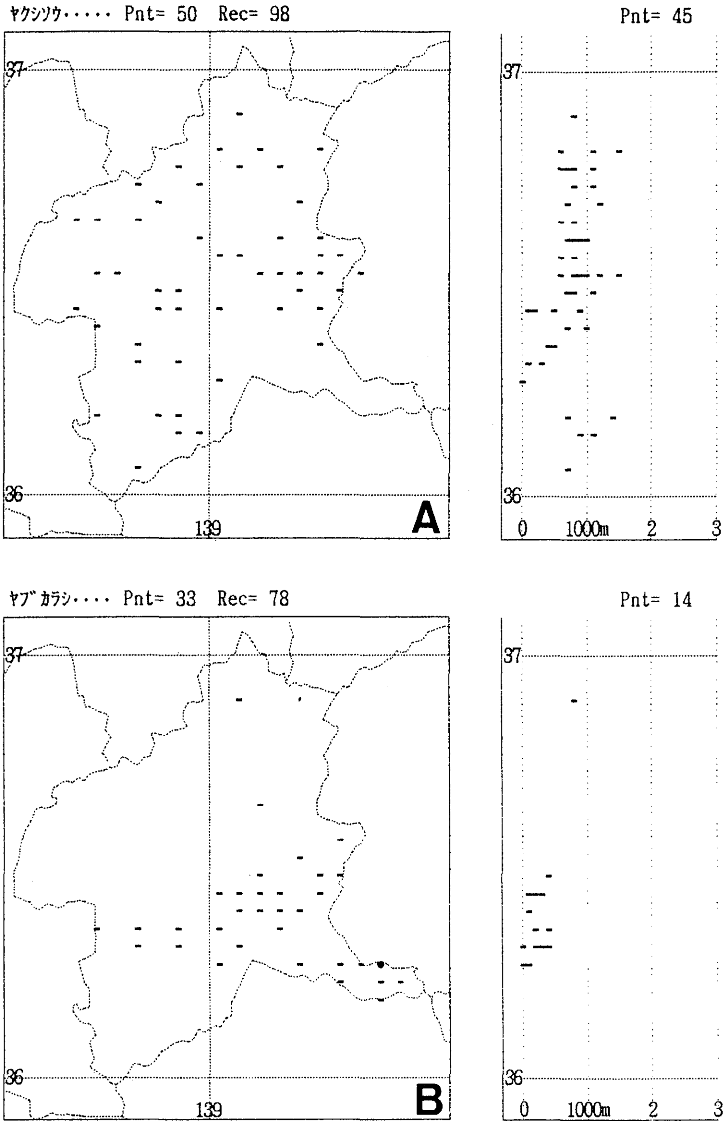
ﾔｸｼｿｳ・・・・・ Pnt= 50 Rec= 98
Pnt= 45
37
36
139
A
0
1000m
2
3
ﾔﾌﾞｶﾗｼ・・・・ Pnt= 33 Rec= 78
Pnt= 14
37
36
139
B
0
1000m
2
3

Fig. 16. A: *Youngia denticulata*. B: *Cayratia japonica*.

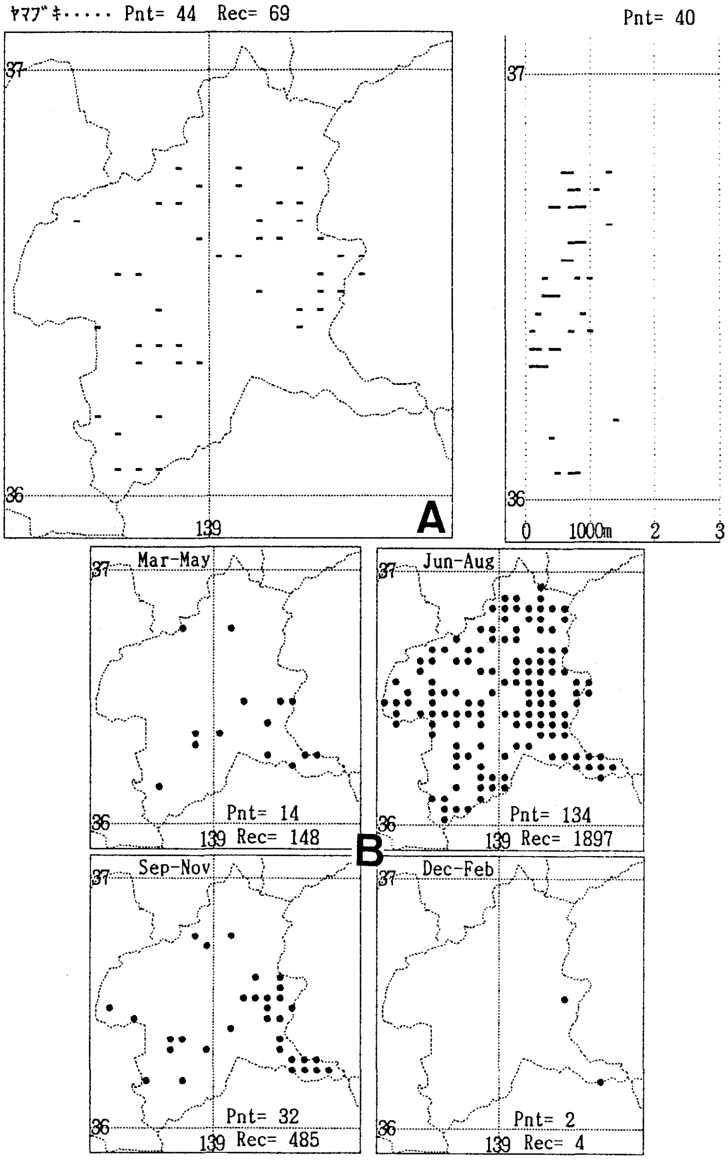

Fig. 17. A: *Kerria japonica*. B: 季節ごとの調査地点. Survey spots in different seasons.